

NEWSLETTER

JULY 2025

ISSUES #3

当社の旬な話題をご紹介します
大気社ニュースレター
 発行元：株式会社大気社 経営企画部
 広報・サステナビリティ推進課
 連絡先：mailmast@taikisha.co.jp

挑戦のはじまり 「10年プラン2035」を策定

大気社は2025年5月、新たな3か年の中期経営計画に加え、当社にとって初めてとなる10年間の長期経営計画「10年プラン2035」を発表しました。これまで3年単位で描いてきた成長戦略を、今回はあえて10年という長期スパンで構想したのは、サステナブルな社会の実現に向けて、自社の使命と方向性をより明確に示す必要があると考えたからです。社会の変化が加速する今だからこそ、10年後の未来を見据え、着実な成長と変革に挑む。この長期の視点こそが、次なる飛躍への第一歩です。



大気社の未来を見据えた「10年プラン2035」の資料

前回と何が違う？逆算型中計の戦略 10年後の未来から描く、 最初の3年とは？

今回の中期経営計画は、これまでの3か年計画とは大きく異なり、10年後の目標を見据えた長期経営計画「10年プラン2035」と連動して策定されています。3か年で完結していた前回と比べ、今回は「ホップ・ステップ・ジャンプ」の最初の3年を“変革に向けた再構築”の期間と位置づけ、成長投資額も前回比で倍増。重点市場の明確化や非日系企業への展開、人的・知的資本の強化、経営基盤の変革など、未来の姿から逆算して取り組む構造的な戦略が特徴です。

“Be Engineering”の実現に向けて サステナブルな社会を支える存在へ

本プランでは、2035年の「ありたい姿」として“Be Engineering for a Sustainable Society”を掲げています。これは単なるスローガンではなく、技術とシステムの力で社会課題の解決に貢献し続ける「価値創造型企業」への進化を意味します。具体的には、従来の工事請負型のビジネスモデルから、設計・施工・保守までを一貫して担う体制へとシフト。これにより「Design, Build & Care」を追求し、グローバルな視点から最適なソリューションを提供することを目指します。



代表取締役社長 長田 雅士

また、10年プランは3つのフェーズに分かれています。2025年からの最初の3年は「変革に向けた再構築」、次の3年は「成長実現への投資」、最後の4年は「成長戦略の実践と飛躍」と位置づけられており、段階的に企業価値を高めていく構想です。

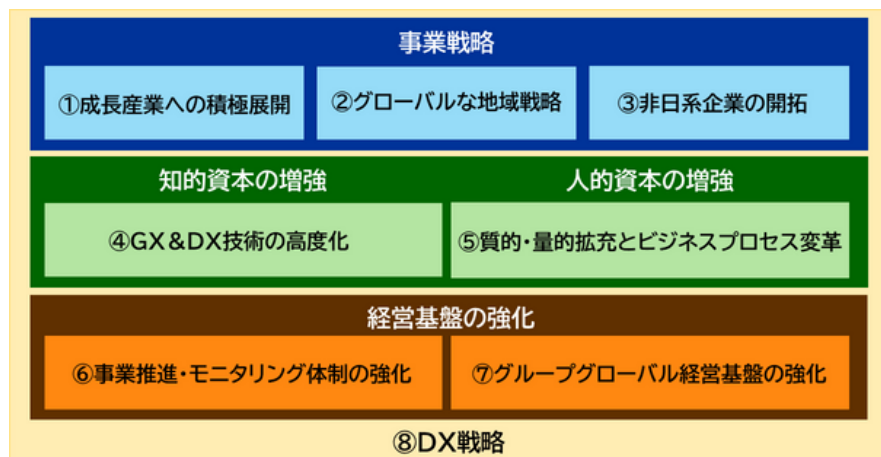
未来を見据えた戦略的挑戦

「10年プラン2035」の実現には、これまでの延長線上ではない非連続な成長が求められます。大気社はその実現に向けて、事業・技術・人材・経営基盤・DXの領域を包含する「8つの戦略的焦点」を設定し、10年先を見据えた構造的な変革に果敢に取り組んでいきます。

事業面（①②③）では、成長産業への選択と集中を掲げ、半導体・電子部品、モビリティ、バッテリー、バイオ医薬品、データセンターの5分野に注力。国内外の地域戦略を並行して進めるとともに、非日系企業の開拓を通じて新たな市場も獲得していきます。これにより、従来の請負型ビジネスから、提案型・共創型ビジネスへの転換を目指します。**技術面（④）**では、環境システム事業で培ったCO₂削減技術と塗装システムでの自動化技術を融合させ、産業のグリーン化・スマート化に貢献。人的資本（⑤）では、エンジニアリング力と多様性対応力の強化を軸に、グローバルな事業展開を支える人材を育成するとともに、

人材を育成するとともに、BIMやDXによる業務効率化も推進します。

また、**経営基盤（⑥⑦）**の面では、成長戦略会議やデジタル・イノベーション委員会の設置を通じて、意思決定の質とスピードを高め、グローバル共通システムやITガバナンスの強化を図ります。さらに、**DX戦略（⑧）**では、設計・見積・施工といった業務のデジタル化を進め、BIMやEMS、デジタルツインを活用したエネルギーマネジメントや工場自動化など、新たな価値の創出に挑戦していきます。これら8つの取り組みを一体的に推進することで、確かな歩みを着実に進めていきます。



今回発表した「8つの戦略的焦点」

責任者が語る “Be Engineering”の真意とは？



中川 正徳

取締役副社長執行役員
経営企画本部長 兼 サステナビリティ推進担当

10年プランおよび新中期経営計画の資料は[こちら](#)からご覧いただけます。

—今回の「10年プラン2035」に込めた想いを教えてください。

長期的な視点で、当社が社会に対してどう貢献し、どのような価値を生み出していくかをあらためて定義し直す必要があると考えました。

「Be Engineering for a Sustainable Society」というメッセージには、技術によって社会課題を解決し続ける存在でありたいという私たちの強い意志を込めています。

—初めての10年プランの策定で苦労されたのでは？

未来から逆算して今を考える、というアプローチは簡単ではありません。ただ、社員一人ひとりが自分の仕事と10年後をつなげて考えるきっかけになったことは大きな収穫です。議論を重ねるなかで、当社らしい成長の形が見えてきました。

—今後の展望について教えてください。

産業を支える企業としてその先にあるのは社会全体の持続可能性です。だからこそ、10年単位で未来を見据え、今できることを丁寧に積み重ねる必要があります。人・技術・環境、それぞれが調和する企業づくりを進めていくことで、社会に対する責任を果たしていきたいと考えています。